

新・農業経営者ルポ／第75回

農協職員から専業農家へ 50歳で観光農園経営を目指す



農協職員から專業農家へ 50歳で観光農園経営を目指す

ブルーベリーは、今から50年以上前に米国から導入された果樹である。1990年代になってようやく栽培法が確立したことや、目の疲労回復などに効果があると評判になったことが影響して、一気にブームが到来した。日本全国から青果が入荷する東京都中央卸売市場のブルーベリー入荷量80tのうち、20%を占めるのが千葉県産である(2009年)。元農協職員から專業農家に転身した江澤貞雄は、ブルーベリー栽培の独自技術確立して観光農園の振興を進めている。

取材・文／芹澤比呂也 撮影／土井学

東京から車で1時間。房総半島の美しい里山に、全国のブルーベリー農家の駆け込み寺がある。東京湾アクアラインのトンネルを抜け、さらに圏央道で内陸部に入ると、両脇に丘陵地帯が迫ってくる。木更津東インターチェンジを降りると、そこは万葉の歌に詠われ、武田家ゆかりの城跡も残された歴史の里だ。ひなびた木舎のJR久留里線馬来田駅を過ぎて山道を登ると、小川のせせらぎの横にエザワフルーツランドの看板が立っている。

園主の江澤貞雄の案内で竹林の中に入ると、道すがらに絶滅危惧種のクマガイソウが葉を広げ、トチバナシジミが赤い実を付けていた。10分ほど山道を歩くと突然視界が開けて、1500本ものブルーベリーが生い茂る光景が目飛び込んでくる。森林浴をしながら自然との触れ合いを満喫できる森の中の観光農園である。この一帯は、江澤が妻の幸

子と二人で開墾した。1haの果樹園だけでなく、5haの山林全体で農薬や除草剤は一切使用していない。おかげで手作業による草刈りは毎年大きな負担となっているが、多様な生物が暮らし、触れ合うことができる環境こそが、この観光農園の大きな付加価値となっているのである。

広告代理店から農協職員への転職

この山林は、以前は貞雄の父・惣吉(故人)の仕事場でもあった。惣吉は稲作のほか、薪炭林で山仕事もしていた。薪炭林とは、文字通り薪や木炭を生産する目的で維持・管理される里山のことだが、戦後、化石燃料が主流となる中で廃れていった。その後、拡大造林政策が始まるとスギやヒノキの植林を始めたが、全国の里山と同様、この地も安い輸入材に押されて競争力を失った。その結果、間伐作業や下草刈りなどの

手入れをされない山が放置され、紅葉工業地帯に働きに出る農家が増えていった。平地が少なくなだらかな丘陵を有効活用しようと、山の斜面を切り開いてインゲンやナシの栽培も試みられていたが、農家の収入は増えなかった。そんな時代の変遷を感じながら育った江澤は、当初は農業には見向きもしなかった。得意な絵の技術を生かそうと東京のデザイン専門学校に進学し、都内の広告代理店に就職する。ところが27歳の時に人生の大きな転機がやってきた。家の長男が分家したことで急遽、次男である江澤が実家を継ぐことになり、木更津に戻ったのである。

新しい職場は地元の農協だった。

江澤は営農指導課に配属されるが、組合員を指導する立場でありながら、経験も知識もおぼつかない状態だった。そこで、持ち前のチャレンジ精神で農業の現場を歩き回りながら、ゼロから勉強を始める。農協離れと農業離れが同時に進む中、地域の人々が昔から生業の場としてきた山林を生かしながら、農業振興ができないかと考えるようになっていった。当時、営農指導員の花形はレタスやインゲンなど野菜の担当者だった。ところが江澤は、豊かな自然に触れることができる都会人向けの観光農園が有望だと確信して研究

エザワフルーツランド 代表

江澤貞雄

千葉県木更津市



えざわ・さだお●1947年、千葉県生まれ。東京のデザイン専門学校を卒業後、広告代理店に就職したが、27歳の時に実家を継ぐために木更津市に戻る。以降23年間、農協の営農指導員として活躍する。ブルーベリーによる地域振興を決意して1997年、50歳で農協を退職。自ら專業農家としてエザワフルーツランドを設立した。収入の柱はブルーベリーの苗木生産販売6割、観光摘み取り園3割、果実販売1割。その他ギンナン1ha、水稲15aなど。従業員4名。木更津市観光ブルーベリー園協議会会長、日本ブルーベリー協会副会長。

<http://www.ezawaf.com/>

を始めた。

「それにはまず、無農薬栽培に挑戦する必要があったのです。ところが新しい作物に無農薬栽培で挑戦しようと呼びかけても、私のような若い指導員の言うことに耳を貸す組合員はほとんどいませんでした」

江澤は自ら実践することにした。ナシ、リンゴ、モモ、サクランボ、カリン、キウイ。あらゆる種類の果樹を試験栽培する中で、無農薬でもこの地で栽培できそうな果樹を発見した。そのひとつがブルーベリーだったのである。

江澤式無農薬ブルーベリー栽培

日本でのブルーベリー栽培の歴史は、1951年に当時の農林水産省北海道農林試験場が、米国から導入したことに始まる。しかし何十年の間、誰も見向きもしないマイナーな果樹だった。目に良いブルーベリー」という評判がマスコミを中心になり、本格的に全国に産地が拡大していったのは90年代になってからだ。89年、42歳になった江澤は組合長と共に千葉県農業大学校に導入されたブルーベリーを早速視察した。これが独自の無農薬栽培の研究を始めるきっかけとなった。

ブルーベリーは、ツツジ科スノキ

属に分類される北米原産の落葉性低木である。品種は200種類以上あるが、ハイブッシュ系、ラビットアイ系、ローブッシュ系の3つの系統に大別されている。ハイブッシュ系は寒冷地向きで、6月上旬から成熟する。ラビットアイ系は暖地向きで7月上旬から成熟し、色付いてからさらに追熟させて収穫すること、

さらに追熟させて収穫すること、食味が飛躍的に高まる特徴を持っている。ローブッシュ系は樹高が40cm前後と低く、観賞用のガーデンングで人気がある。

ブルーベリーは無農薬栽培が比較的容易にできるといわれているが、誤解が多いと江澤は言う。

「日本に輸入されてきた多くの新品種がハイブッシュ系でした。その栽培法がすべてのブルーベリーに通用するわけではないのです」

適切に品種を選べば北海道から沖縄まで全国で栽培可能だが、目的に応じて果実の大小、栽培の難易度、収穫時期などの特性を見極めなければならぬ。定植時の具体的な注意点は以下の通りである。

●ブルーベリーは酸性土壌を好むため、植え付け時にピートモスが必ず不可欠といわれるが、ラビットアイ系の場合は概ね必要ない。

●土壌pHを下げる必要がある場合は



1 森林に覆われた観光農園の入口。2 登山道に設置されている案内看板。来園者を飽きさせない演出が随所に施されている。3 入口からブルーベリー園までは約10分の道のり。クルマで乗り入れることができない不便さを逆手にとり、森林浴を楽しんでもらおうというのがエザワフルーツランドの大きな特徴だ。4 登山道では各種野草が迎えてくれる。5 中腹に設置された水車。



農協職員から専業農家へ 50歳で観光農園経営を目指す



7

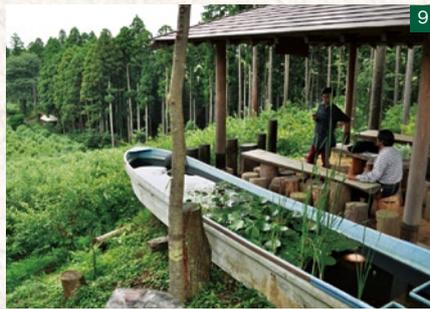


6

6 観光農園のオープンを待つばかりのブルーベリー。7 山頂付近から見下ろすブルーベリー園。野鳥のさえずりが来園者を癒してくれる。8 夏休みシーズンに成熟する品種のため、7月上旬の取材時にはまだ青い実が多かった。9 園内の数カ所に休憩小屋が設置されている。船には水が張られ、アメンボが遊んでいた。10 コンロでジャム作り体験も実施している。家族連れに人気だ。



10



9



8

硫黄粉を使用するが、適正なpHは品種によって異なる。ハイブツシュ系は4.3〜4.8、ラビットアイ系は4.5〜6.0である。

● 植え穴は幅60〜80cm、深さ50〜60cmに掘って、下から順に籾殻20ℓ、ピートモス20ℓを入れてから、掘り上げた土を十分に混ぜ合わせる。ただしラビットアイ系は、直植えして数年間かけて環境に順応させることが重要である。

● 植え付け間隔はハイブツシュ系は1.8×2.5m、ラビットアイ系は2×3mほど空ける。

● 安易な水やりに頼らず、株元に籾殻や稲藁、オガクズなどを10cmの厚さで敷く。こうすることで地表の蒸発を防ぎ、地温を保つ働きが得られて生育が促進される。

● ほとんどの失敗の原因は、水のやり過ぎによる根腐れである。ブルーベリーは、停滞水には非常に弱い。特に定植後3年間は辛抱して苗木の生命力を存分に引き出すことが重要である。

収穫時の注意点としても興味深いノウハウがある。6月上旬から成熟するハイブツシュ系の場合、関東地方ではヒヨドリなど鳥害対策が必要となる。木の実を好むヒヨドリは各ブルーベリーの成熟期を正確に知っ

ているため、収穫の直前に狙いを定めて食べられてしまう。通常は20mm目の防鳥ネットで樹を覆うが、江澤は違う対策をとっている。ヒヨドリの渡りの時期を観察した結果、7月中旬には木更津地域から多くのヒヨドリが離れていくことが判明したため、7月下旬以降に成熟期を迎える品種を中心に栽培しているのである。関東産のブルーベリーは、6月には市場に多く出回っているが、エザワフルーツランドではラビットアイ系の品種を中心に栽培しているため、開園は毎年7月20日前後だというのも頷ける。実際7月上旬の取材時には、ヒヨドリの姿はチラホラりの状態で、ラビットアイ系の品種が少しずつ成熟期を迎えていた。

さらに苗木生産の植え替えの際に、従来よりも大きいサイズのポットを使うことで、より強い苗木にする技術を普及させたのも江澤である。この方法は大手の苗木メーカーでも採用されている。こうした数々のノウハウは、試行錯誤しながら30種類もの苗木の生産・販売してきた江澤だからこそ蓄積されてきたものなのだろう。

今では地域ごとの自然特性や生き物の生態を重視した技術指導が評判となっており、全国から栽培指導を請う問い合わせが後を絶たない。韓国など

海外からの視察もあるほどだ。江澤はすべてのノウハウを無償で提供している。農協時代の指導員魂ともいえるが、売上の6割を占める苗木販売に繋げているのである。

東京湾横断道路の 開発計画を冷静に見つめる

何事も他人任せにせず、新しい挑戦を自ら仕掛ける江澤の生き方は、今に始まったことではない。1984年に『房総半島午前四時』という書籍が発行されている。これは、当時の東京湾横断道路（東京湾アクアライン）建設決定をきっかけに設立された研究会が発行したものである。同じようなロケーションの先駆事例として、米国サンフランシスコの連絡橋周辺を視察した際のレポートがまとめられている。頁をめくると、寄稿者は皆、異口同音に今後の物流や人の流れの変化に期待し、地域経済の振興策と対応について論じている。その中で異彩を放つ寄稿がひとつだけある。「農業の変化と対応」と題した江澤の論説である。

半島午前四時」より)

地元議員、観光・ホテル業界など、ほかのメンバーがバラ色のシナリオを描く中、ただひとり覚めた目で東京湾横断道路の未来をとらえていた様子がかがえる。帰国後、道路建設計画には過剰な期待は持たずに、江澤はブルーベリーの観光農園振興にますますのめり込んでいく。

家族を驚かせた 専業農家への転身

農協に勤めて23年。50歳の誕生日を迎えた1997年。江澤家に衝撃が走った。江澤は安定した農協職員の仕事を辞して、ブルーベリーの専業農家になると宣言したのだ。妻の幸子は絶句し、当時進学を控えていた二人の娘たちは「お父さん、何考えているの？信じられない……」とつぶやいたという。しかし、江澤にとつては長い年月をかけて考え抜いた結論だった。農協退職時の挨拶状には、50歳で退職することは長年の計画であり、今後は一組合員として活動し、観光農園を目指すと言っている。確信犯だったのだ。江澤は当時をこう回想する。

「家族は渋々認めてくれたけど、本格的にブルーベリーの産地にしていくためには、周囲の農家に認めてもらわなければだめなんですよ。自ら



12

11エザワフルーツランドの売上の柱となっているのが苗木の販売である。ただ、江澤本人はいずれ観光農園事業が中心になっていくことを望んでいる。12ブルーベリーは挿し木で殖やすことができる。13顧客の栽培条件や目的に合った品種を選び、技術指導も行ってくれる江澤の苗木販売事業は評判が高い。



13



11

農協職員から専業農家へ 50歳で観光農園経営を目指す

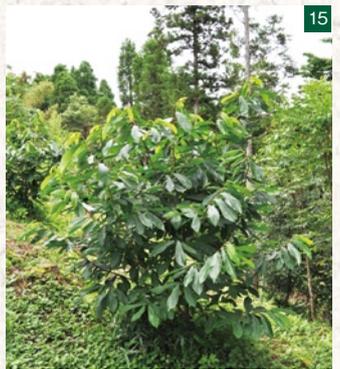


16



14

14 江澤がブルーベリー園を営む。15 江澤がブルーベリー園を営む。16 江澤がブルーベリー園を営む。17 江澤がブルーベリー園を営む。18 江澤がブルーベリー園を営む。19 江澤がブルーベリー園を営む。20 江澤がブルーベリー園を営む。21 江澤がブルーベリー園を営む。22 江澤がブルーベリー園を営む。23 江澤がブルーベリー園を営む。24 江澤がブルーベリー園を営む。25 江澤がブルーベリー園を営む。26 江澤がブルーベリー園を営む。27 江澤がブルーベリー園を営む。28 江澤がブルーベリー園を営む。29 江澤がブルーベリー園を営む。30 江澤がブルーベリー園を営む。31 江澤がブルーベリー園を営む。32 江澤がブルーベリー園を営む。33 江澤がブルーベリー園を営む。34 江澤がブルーベリー園を営む。35 江澤がブルーベリー園を営む。36 江澤がブルーベリー園を営む。37 江澤がブルーベリー園を営む。38 江澤がブルーベリー園を営む。39 江澤がブルーベリー園を営む。40 江澤がブルーベリー園を営む。41 江澤がブルーベリー園を営む。42 江澤がブルーベリー園を営む。43 江澤がブルーベリー園を営む。44 江澤がブルーベリー園を営む。45 江澤がブルーベリー園を営む。46 江澤がブルーベリー園を営む。47 江澤がブルーベリー園を営む。48 江澤がブルーベリー園を営む。49 江澤がブルーベリー園を営む。50 江澤がブルーベリー園を営む。51 江澤がブルーベリー園を営む。52 江澤がブルーベリー園を営む。53 江澤がブルーベリー園を営む。54 江澤がブルーベリー園を営む。55 江澤がブルーベリー園を営む。56 江澤がブルーベリー園を営む。57 江澤がブルーベリー園を営む。58 江澤がブルーベリー園を営む。59 江澤がブルーベリー園を営む。60 江澤がブルーベリー園を営む。61 江澤がブルーベリー園を営む。62 江澤がブルーベリー園を営む。63 江澤がブルーベリー園を営む。64 江澤がブルーベリー園を営む。65 江澤がブルーベリー園を営む。66 江澤がブルーベリー園を営む。67 江澤がブルーベリー園を営む。68 江澤がブルーベリー園を営む。69 江澤がブルーベリー園を営む。70 江澤がブルーベリー園を営む。71 江澤がブルーベリー園を営む。72 江澤がブルーベリー園を営む。73 江澤がブルーベリー園を営む。74 江澤がブルーベリー園を営む。75 江澤がブルーベリー園を営む。76 江澤がブルーベリー園を営む。77 江澤がブルーベリー園を営む。78 江澤がブルーベリー園を営む。79 江澤がブルーベリー園を営む。80 江澤がブルーベリー園を営む。81 江澤がブルーベリー園を営む。82 江澤がブルーベリー園を営む。83 江澤がブルーベリー園を営む。84 江澤がブルーベリー園を営む。85 江澤がブルーベリー園を営む。86 江澤がブルーベリー園を営む。87 江澤がブルーベリー園を営む。88 江澤がブルーベリー園を営む。89 江澤がブルーベリー園を営む。90 江澤がブルーベリー園を営む。91 江澤がブルーベリー園を営む。92 江澤がブルーベリー園を営む。93 江澤がブルーベリー園を営む。94 江澤がブルーベリー園を営む。95 江澤がブルーベリー園を営む。96 江澤がブルーベリー園を営む。97 江澤がブルーベリー園を営む。98 江澤がブルーベリー園を営む。99 江澤がブルーベリー園を営む。100 江澤がブルーベリー園を営む。



15

10年には「観光ブルーベリー街道」と名付けた道に加盟農園の案内看板を設置し、新しいパンフレットも完成した。こうした活動の積み重ねで、地元の行政支援を引き出すことにも成功した。今年の集客は協議会加盟の観光農園全体で2〜3万人を目標にしている。その根拠は2年前から始めた駐車場での調査の手ごたえである。09年に東京湾アクアラインの通行料が4000円から8000円に引き下げられ、京浜地区からの来園者数は08年の24%から30%へと上昇した。横断道路の開発計画に安易に

リスクを冒して実績を出さなければ、人はついてこないと身に沁みたる23年間でしたからね」

**地域の農家を牽引して
新たな協議会を設立**

有言実行で2002年にエザワフルーツランドはオープンした。かつて自らの呼びかけに耳を傾ける農家がいなかったことに葛藤を感じた江澤だが、自分が旗振り役となって観光農園を実現させたことで、理解者も増えてきた。ブルーベリーを生産する周辺農家の輪は徐々に広がり、07年には木更津市観光ブルーベリー園協議会を設立するに至った。現在加盟している7つの農園は、すべて江澤がプロデュースしたものである。

「今後の目標は、ブドウといえば勝沼というように、ブルーベリーといえば木更津と言ってもらえるくらいに、地域全体を巻き込んで観光農園の振興を進めていくことです」

家族を巻き込み、地域も巻き込みでの活動に決意を新たにしている江澤。その後ろで話を聞いていた幸子は、静かに微笑んで頷いていた。

(本文中敬称略)

踊らされず、できることを自力でこつこつ積み上げてきた成果が実を結ぼうとしているのである。

**家族を巻き込み
地域も巻き込む**

江澤は仲間を増やしながらも、自分の観光農園をより魅力的な空間にするための努力も怠っていない。山の中には小船に水を張って作ったピオトープが5つあり、散策路には水車が回っている。樹齢100年の杉の木の近くには、涼しげな水の滴る音が聴こえる水琴窟も設置した。ガスコンロを設置した小屋では、手づくりジャム教室を開いている。さらに森の頂上にある休憩小屋には、「幸せの鐘」と名付けた真ちゅう製の鐘を取り付ける予定だ。取材した7月上旬は、これらの施設の点検や清掃など、観光農園シーズンに向けて準備を進めているところだった。